

## 投稿規定 (平成十一年五月一五日改訂)

さる平成十一年五月一五日の総会において、投稿規定が改定されました。今後のご投稿にあたっては、この規定にそってご執筆をお願いいたします。なお今回の改訂箇所は、四、執筆要綱bとiの二ヶ所です。ゴチツクで表記いたしましたのでご留意ください。

(編集委員会)

一 本誌に掲載する論文は医史学研究に貢献しうるもので他誌に未発表のものとする。

二 投稿者の資格は共著者も含めて本学会会員とする。ただし編集委員会が特に認めたものはこの限りでない。

三 原稿の区分は、原著・総説・研究ノート・広場・資料紹介・消息等とし、その採否は編集委員会が決定する。

原著・研究ノートは編集委員会の委嘱する審査委員が査読し、それにもとづいて採否および区分を編集委員会が決定する。

## 四 執筆要項

a 原稿は二〇〇字または四〇〇字詰め縦書き原稿用紙を使用のこと。ワープロ(縦書)の使用も可。一行は二〇字または四〇字とし行数を原稿に記すこと。  
b 原著・総説・研究ノート・広場・資料の場合は、欧文

表題・ローマ字著者名を原稿の末尾に記すこと。さらに原著および研究ノートにおいては欧文要旨(二五〇語以内)と和文要旨(欧文要旨の対訳)を添え、その末尾に表題および要旨から選択した和文のキーワード(五語以内)を記すこと。

c 欧文題名・欧文抄録での日本人名の表記については、五 外国語原稿のe項に準ずるものとする。

d 原稿の末尾に著者の所属および連絡先を記載すること。

e 表記は原則として常用漢字・人名用漢字以内で、新かなづかいを使用する。難字は欄外にも楷書で別記する。

f 外国人の人名・地名は、よく知られたもののほかは初出の箇所に原綴またはローマ字を添えることが望ましい。

g 図・表は明瞭に書き、写真は原則として白黒の紙焼きとする。裏には著者名・番号・天地を明記し、挿入位置を原稿中に明示すること。

h 注・参考文献は末尾にまとめ、本文初出順に算用数字の通し番号(1)、(2) …をつけて、照合の便宜をはかること。

i 参考文献の引用の仕方は、

①雑誌の場合は、著者名・論文題目・雑誌名・巻・号・頁・年次(西暦・和暦いずれも可)の順に書く。②単

行本の場合は、著者名・書名・該当頁・発行所名・発行地・年次を記載する。③編著書の場合は、著者名・論文題目・著者名(編者名)・該当頁・発行所名・発行地・年次とする。④古文獻の場合、江戸時代以前の国書については、原則として、編著者名・書名・成立年刊行年(もしくは抄写年)・発行者名・発行地など、必要ならば該当丁(葉)あるいは頁数もしくは項目名を記し、稀覯本については所蔵者名も明記すること。清代以前の漢籍(和刻本・日本写本も含む)についても、前記に準ずる。

## (例)

【雑誌】宗田 一「司馬江漢の西遊をめぐって」『日本医史学雑誌』三〇巻四号、四二五～四三二頁、一九八

四(または昭和五十九年)

【単行本】富士川游『日本医学史』五四頁、形成社、東京、

一九七二(または昭和四十七年)

【編著書】大塚恭男「中国医学の伝統」村上陽一郎編『医学

思想と人間』(知の革命史6)六三～九四頁、朝倉

書店、東京、一九七九(または昭和五十四年)

## 五 外国語原稿

a 外国語原稿は、原則として英語・独語・仏語いずれかとする。

b 外国語の原稿は原則として、一行約六五字、一頁に二五行、ダブルスペース(一行おき)で印字する。

c イタリアック・ゴシック・ギリシャ文字等はかならず朱筆で指定する。

d 日本語・中国語を欧文表記する時は、初出の箇所に漢字を付記する。

e 日本人名を欧文表記する際には原則として名を先に、姓を後とする。ただしそれが不自然な場合はケースバイ・ケースで扱って差し支えない。

f 中国語の欧文表記は、現代中国語音のローマ字綴り(ピンイン式)とする。引用文献がウェード式の場合は、この限りでない。

g 注・文献・図表については、和文原稿の規定に準ずる。

h 題名中に書名が出現する場合は引用符「」で囲み、イタリック体を使用しない。

## (例)

【雑誌】Nutton, V.: Galen in the Eyes of His Contemporaries. Bulletin of the History of Medicine. 58:

315-324, 1984.

【単行本】Temkin, O.: The Falling Sickness; a History of Epilepsy from the Greeks to the Beginnings of Modern Neurology 2nd ed. 25-40, Johns Hopkins University Press, Baltimore, 1971.

【編著書】McC. Brooks, Ch. and Levey, H.A. Humorally Transported Integrators of Body Function and the Development of Endocrinology. 183-238 in

McC. Brooks, Ch. and Craneheld, P.F. (eds):  
The Historical Development of Physiological  
Thought. Hafner, New York, 1959.

六 投稿原稿は、コピーを一部添付すること。原稿は著者校正の際も原則として返却しないので、手元にコピーを一部残すこと。

七 著者校正は、原則として原著・総説・研究ノート・広場資料を対象とし、初校のみとする。校正は印刷上の誤植を訂正するに留め、原稿の改変や、その他の組み替えは認めない。校正刷りの返送期日を厳守すること。期日までに返却されない場合は責了とみなす。

### 編集後記

西暦二千年の記念すべき年の第一号をお届けする。この時にあたって編集業務が新たに日本学会事務センターに移管され、その第一号ともなっている。移管されたとはいえ、本誌の内容にいさかも変更がないことはご覧頂ける通りである。しかし投稿規定や、原稿の送付先などが変更されているので、十分ご注意頂きたいと思っている。▼会員の皆様の内容の充実したご投稿によって会誌が順調に発行できることは、編集委員会としてはもっとも喜ばしいことである。会誌の発行はまさに会員の投稿に支えられていることができよう。だが投稿が多岐にわたってきてくると思わぬ事態が生ずることがある。その一例として昨年、ある会員から査読に時間がかかりすぎるのではないかと

八 刷り上がり一〇印刷ページ(四〇〇字詰原稿用紙で二四枚)までは原則として無料とし、超過分と図表製版の実費は著者負担とする。

九 論文別刷は五〇部単位とし、実費で作製する。別刷希望者は校正刷同封の申込書に部数を明記すること。  
一〇 原稿の送り先

〒二三〇〇三 東京都文京区本郷六一七一九

本郷綱ビル二階

財団法人日本学会事務センター学会共同編集室内、  
日本医史学雑誌編集委員会

というお叱りを頂いた。▼その領域について豊富な知識を有しておられる会員を最適任者として査読をご依頼申し上げているが、ご承知のように査読というのはまことに気骨の折れる、面倒な作業なので、お願いする委員会としてもなごしかの躊躇いを感じることも多い。▼医学系の諸学会では査読期間を二、三週間だときいているが、本学会では充分ご検討頂くためもあって審査期間を二ヶ月としている。お忙しいお仕事の合間をぬって査読して頂くに違いない、とおもうだけに査読期日が超過してもなかなかご催促を申し上げるのとはばかれる、というのが現実の状況である。力作をお寄せ頂いた著者のお立場も十分ご理解頂いて、期限内にご返送頂くことをあらためてお願いしたい。

(深瀬 泰旦)